



菊池内科ホームページ
<http://www.kikuchi-clinic.com/>
<http://www.kikuchi-clinic.com/ez/> (for EZweb)
<http://www.kikuchi-clinic.com/i/> (for i-mode)

- 1 頁：老人医療費の負担増(2)
(来年1月からの予定)
- 2 頁：インフルエンザの予防接種
(予約受付は終了しました)
- 3 頁：ピロリ菌の除菌療法が保険
適用となります。
逆流性食道炎の内服薬

き
 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる
ふじわらのとしゆき こきん
 藤原敏行(古今和歌集)
 (秋がもう来ていたとは、目にはわからなかったが、
 風の音でそれを知り、はっとさせられた)

先月号の原稿を書いている時(9月末)に、この和歌を書こうとしたのですが、「まだこんなに暑いのに、ひんしゆくを買いそうだ。」と考えたのが間違いでした。

あっという間に寒くなって、1週間前には冷房をかけていたのに、急に暖房をいれるほどになってしまいました。風邪には十分ご注意ください。

11月7日はりっとう立冬です。やはり今年も冬は来るようです。自然は偉大だと改めて感心しています。

病気も同じです。痛かったり、出血をするような外科系の病気(けが)なら、みなさん急いで病院に行かれます。反対に、痛くも何ともない糖尿病や高血圧などの病気は、大丈夫だろうと油断している間に悪くなり、気がついたときには取り返しのつかない状態ということが少なくありません。

いろいろと大変な世の中ですが、みなさん、ご自分(やご家族)の健康だけは、しっかりと守ってください。

老人医療の負担増について

先月号で少し書きましたが、来年1月から老人医療費の負担が増えることになりそうです。(元々は今年7月からの予定でした)

現時点での案は、右の表の通りです。病院の規模や処方の方針によって、負担額や1か月の限度額がちがうため非常に複雑です。

詳細はまだ決まっていなくて、いつものお役所仕事で、ギリギリにならないと決まらないのでしょうか。決まる直前に、どこかの政党が人気取りで、おかしな妥協案を出したりするかもしれません。

上限があるとはいえ、1.5~2.5倍の負担増になる可能性があり、大変な値上げで

す。
 この負担増で一番心配なのは、患者さんの病院離れです。もちろん、不必要な通院はなくなった方がいいと思います。以前に書きましたが、本院では月1回の通院の患者さんが大部分です。他院で月2~4回の通院が必要とされていた患者さんでも、状態が許せば月1回にいただいています。
 負担が増えれば、おそらく、自己負担を減らすために患者さんが自己判断で通院回数を減らされます。とくに減るのは、自覚症状のない内科の患者さんの通院であることは過去の経験で十分予想されます。負担増の是非は別として、非常に困ったことです。

(下表) 来年1月からの、老人医療の負担(案)(これから国会で審議されます)
 なお、老人医療は(原則)70才以上の方が対象ですが、65~69才の老人医療(大阪府の制度)も、これに準じて変更されると思います。

医療機関の区分	医療費	処方形態	1か月の限度額
現行	1日 530円		2120円
200床以上の病院	1割	院内処方	5000円
		院外処方	5000円 (病院分2500円) (薬局分2500円)
200床未満の病院	1割	院内処方	3000円
		院外処方	3000円 (病院分1500円) (薬局分1500円)
診療所 (定率選択)	1割	院内処方	3000円
		院外処方	3000円 (診療所分1500円) (薬局分1500円)
診療所 (定額選択)	1回 800円		3200円

インフルエンザの予防接種を開始しました

**が、予定数以上の申し込みを頂きまして、受付は終了いたしました。
まことに申し訳ありません。来年はこのようなことのない様にしたいと思います。**

10月16日からインフルエンザの予防接種を開始しました。
昨年までは2回受けて頂きましたが、今年からは変更があって、

**13才以上で、
昨年、予防接種を受けたか、インフルエンザにかかった方
は1回の接種で十分な効果が期待できるため、1回で構いません。**

もう一つ条件が追加になり、
65才以上の方は、1回で構いません。

(については、今回厚生省から通知が来たわけですが、接種を開始してから、このような通知を出すとは、さすがにお役所仕事と感心しています。詳細はさらにあとで、11月にならないと教えてくれないそうです！)

年齢		接種回数
65才以上		1回
13~64才	昨年、予防接種を受けたか、インフルエンザにかかった方 昨年、予防接種を受けていなくて、インフルエンザにかからなかった方	
12才以下		2回

インフルエンザの予防接種について、いろいろと質問を頂きましたので、参考までにご紹介します。

1. **昨年、予防接種を受けましたが、風邪をひきました。どうしてですか？**

答) **インフルエンザと風邪は、ちがう病気**と考えていただいた方がいいです。
数年前に、老人ホームなどで集団発生して、亡くなった方がだいぶ出ました。普通の風邪では、そんなことはありません。

きつい風邪にかかっても、それが本当にインフルエンザかどうかは、血液検査でないとわかりません。が、実際は症状で判断して、治療を開始することになります。

2. **いろいろな種類のインフルエンザがあると聞きましたが、全部に効果がありますか？**

答) 大きく分けると、A型とB型の2種類があり、その中でも何種類も(株といえます)あります。

昨年の(世界中の)流行の状況から、今年の流行を予測して、ワクチンの株が決定され

ています。

今年のワクチンは、次の3種類を混合してあります。ワクチンはいくつかの会社で製造していますが、どの会社のものも中身は同じです。

- A型 ニューカレドニア株
- A型 パナマ株
- B型 山梨株

3. **心臓が悪いので、予防接種を受けるのがこわいのですが。**

答) 高齢者や基礎疾患(心臓・肺・糖尿病・腎不全のような慢性疾患)のある方こそ、予防する必要があります。副作用については、心配されるほどのことはありません。

4. **昨年まで2回受けていたのですが、本当に1回で大丈夫ですか？**

答) 1回しかうたずにインフルエンザにかかってしまった場合、その方が2回うっておけばかからなかったかどうか、は難しいところです。費用と副作用の問題もあります。ご心配なら、2回受けていただいても構いません。

5. **菊池内科の料金は、よそより安いので、大丈夫かどうか心配です。**

答) 当院では、かかりつけの患者さんへのサービスと考えていますので、おそらく大部分の医療機関と比べて割安な料金となっています。(そのため初診の方は、カルテ作成料として、1回目は200円増しにしています)。それでも損はしていませんので、ご心配は要りません。

年齢	接種量(ml)
13才以上	0.5
6~12才	0.3
1~5才	0.2
1才未満	0.1

1本の注射液で、大人なら2人うてますし、右の表のように、年齢によってはそれ以上の人数にうつことができますので、少し複雑ですが、下のような料金設定にしています。

当院のインフルエンザ予防接種の料金

1回目：2500円(2300円) 2回目：2300円

2人以上で同時に受けられる場合(1人につき)

1回目：2000円(1800円) 2回目：1800円

おとな1人と子ども(12才以下)2人あるいは

子ども(12才以下)3人で同時に受けられる場合(1人につき)

1回目：1700円(1500円) 2回目：1500円

当院に一度でもかかったことのある方は、()内の料金です。

余談ですが、オーストラリア・ニュージーランド等の**南半球の国では、インフルエンザが流行するのは向こうの冬(つまり、日本の夏)です。**その時期に旅行される方は、行かれる前に予防接種を受けることをお勧めします。

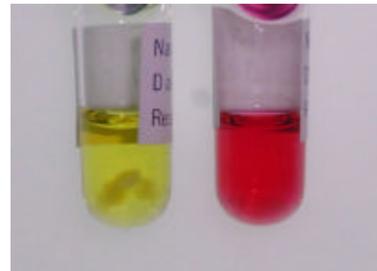
ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)の除菌療法
が、11月から保険適用となります。

ピロリ菌は、胃の粘膜に住みつき、**胃潰瘍や十二指腸潰瘍、慢性胃炎、一部の胃がん**などの原因になると考えられています。胃酸を抑える薬と細菌を殺す抗生物質を併用して、これらの病気を治療すること(除菌療法)が、欧米では一般的に行われています。

特に、再発を繰り返す胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療として行くと、劇的に再発が少なくなるため、保険適用が待たれていました。

ピロリ菌をもっているかどうかの検査は、内視鏡で行います。胃カメラで胃の組織をとり、液につけると判定できます(ウレアーゼテスト)。

右の写真で、赤い方がピロリ菌陽性、黄色い方が陰性です。



さらに、顕微鏡で確認できれば、なお確実です。血液で検査することもできますが、治療効果の判定ができません。(菌がなくなっても、血液中の抗体がすぐにはなくなるため)

除菌療法の流れ

下表のように、X線検査(バリウム)と血液検査での診断も認められているため、内視鏡(胃カメラ)をのまないことも可能ですが、**組織検査による正確な診断のために、内視鏡検査(胃カメラ)をつよくお勧めします。**

(詳細は、次号以降でお知らせします)

内視鏡検査(あるいはX線検査)で、**胃潰瘍あるいは十二指腸潰瘍**を診断

(今回、保険適用となる病名はこの2つです)

内視鏡検査時に組織を採り、**ピロリ菌の存在を診断**。(あるいは血液検査で抗体の存在を確認)

除菌療法(1週間)

および で効果を判定

(除菌療法終了後、4週間以上経過してから)

不成功例には、再度除菌療法

および で効果を判定

(除菌療法終了後、4週間以上経過してから)

逆流性食道炎に対する薬剤の保険適用期間の延長
が、近々認められます。

逆流性食道炎は、**胸やけ**を主な症状とする病気ですが、かなり多くの方が苦しんでおられます。治療としては、**プロトンポンプ・インヒビター(PPI)**という種類の内服薬があり、これをのむと劇的に症状が改善されます。しかし、今までは、この薬は**連続8週間までしか処方できない**規則があるため、せっかく調子がいいのに、効き目のうすい他の薬に変更せざるを得ず、患者さんには不自由な思いをしていただいていた。

今回、やっと、投与期間を延長できることになりそうです。詳細は次号以降でお知らせいたします。

八尾市民のための検診をご存じですか?

基本健康診査(40才以上は年1回無料です)

問診・診察・血圧測定・尿検査・血液検査・心電図

大腸がん検診(40才以上は年1回600円;70才以上、生活保護の方、

市民税非課税所帯の方は無料です)

問診・便潜血反応(2回)

いずれも予約は不要です。お気軽にお受け下さい。

広報誌のバックナンバーについて

今までの広報誌をお読みにになりたい方は、受付にお申し付け下さい。

インターネットで当院のホームページでもご覧になったり、印刷したりできます。そのためにはアドビ社の「**アクトバット・リーダー**」というソフト(無料)が必要です。詳細はホームページをご覧ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9~12							×
午後4~7			×			×	×

菊池内科(内科・消化器科)

〒581-0003 八尾市本町7-11-18 八尾メディカルアベニュー2F

電話 0729-90-5820

ファックス 0729-90-5830